

## 再 評 価 調 査 書

I 事業概要					
事業名	街路事業				
地区名	都市計画道路 <small>こまつばらがいどう</small> 小松原街道線 <small>はまみちみなみ</small> (浜道南工区)				
事業箇所	愛知県豊橋市 <small>とよはし はまみちちょう</small> 浜道町				
事業のあらまし	<p>都市計画道路 <small>こまつばらいどう</small> 小松原街道線は、豊橋市の中心市街地と南部地域を結び、一般県道 <small>とよはしかんじょう</small> 豊橋環状線から主要地方道 <small>ひがしみかわかんじょう</small> 東三河環状線を経て、国道 23 号 <small>めいほう</small> (名豊道路) に至る南北軸を形成する主要な幹線道路である。</p> <p>当該事業区間は、朝夕のピーク時を中心に慢性的に渋滞が発生しており、主要渋滞区間に選定されている。また、豊橋市都市計画マスタープランでは、交通渋滞や沿道環境を改善するため、整備を促進する路線に位置付けられており、円滑な交通の確保が求められている。</p> <p>さらに、事業区間は歩道が未整備であり、自動車交通と歩行者・自転車交通が混在し、歩行者等の安全確保が課題となっている。</p> <p>このため、豊橋市内を南北に連絡する幹線道路の強化とともに、「市街地の交通円滑化」及び「安全な歩行空間の確保」を目的として、現道の拡幅整備を実施するものである。</p>				
事業目標	<p>【達成（主要）目標】</p> <p>①地域の活性化（市街地の交通円滑化）</p> <p>②交通事故対策の推進（安全な歩行空間の確保）</p> <p>【副次目標】</p> <p>—</p>				
計画変更の推移		事前評価時 (2020 年度)	再評価時 (2025 年度)	変動要因の分析	
	事業期間	2021～2027	2021～2027		
	事業費（億円）	8.6	8.6		
	経費内訳	工事費	1.1	1.1	
		用補費	7.3	7.3	
その他		0.2	0.2		
事業内容	道路整備 延長 L=250m 幅員 W=20m 2車線	同左			

II 評価	
①事業の必要性の変化	<p>1) 必要性の変化</p> <p><b>【事前評価時の状況】</b></p> <p>①南北方向の交通円滑化  豊橋市の中心市街地と市の南部を結ぶ主要な南北軸であるが、混雑度が1.05、交通量が16,337台/日(H27道路交通センサス)と慢性的な渋滞が発生しており、交通の円滑化が求められている。</p> <p>②交通安全対策の強化  近隣には高師小学校及び本郷中学校があるが、現道に歩道がないため事業区間を避けるように通学路が指定されている。また、沿道には商業店舗や住居が連立しており、歩行者等の通行も多い。</p> <p><b>【再評価時の状況】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事業区間は主要渋滞区間に指定されていること、また、混雑度が1.1、交通量が15,276台/日(R3道路交通センサス)と依然として混雑しているため、本事業の必要性に大きな変化はない。</li> <li>・近隣には高師小学校および本郷中学校があるが、現道には歩道が整備されていないため、通学路は事業区間を避けるように指定されている。また、沿道には商業店舗や住居が連立しており、歩行者・自転車の安全性が十分に確保されていない状況は変わらず、本事業の必要性に大きな変化はない。</li> </ul> <p><b>【変動要因の分析】</b>  大きな変動要因はない。</p>
	<p>判定</p> <p><b>B</b></p> <p>A： 事業着手時に比べ必要性が増大している。  B： 事業着手時に比べ必要性にほとんど変化がない。  C： 事業着手時に比べ必要性が著しく低下している。</p> <p>※事業着手時と比較することが適当ではないと判断される場合は、「事業着手時」を「前回評価時」に置き換えることができる。</p> <p><b>【理由】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現道は依然として歩道がなく、歩行者等の安全性が十分に確保されていない状況であること、また、慢性的な渋滞により円滑な交通が確保されていないことなど、事業の必要性は着手時から変わらないため。</li> </ul>

1) 進捗状況

【事業計画及び実績】

		2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	合計
工程区分	調査・設計	←————→							
	用地補償				←————→				
	工事					←————→			
事業費 (億円)	当初計画	5.0			3.6			8.6	
	実績	1.4						1.4	
	今回計画	1.4			7.2			8.6	

【進捗率】

	これまでの計画に対する達成状況			全体進捗率	
	計画 【①】	実績 【②】	達成率(%) 【②÷①】	計画 【③】	達成率(%) 【②÷③】
延長(km)	0.25	0	0%	0	0%
事業費(億円)	8.6	1.4	16%	8.6	16%
工事費	1.1	0.0	0%	1.1	0%
用補費	7.3	0.9	12%	7.3	12%
その他	0.2	0.5	250%	0.2	250%

※面積ベースの用地取得率は約15%

【施工済みの内容】

- ・施工済みの区間はなし

2) 未着手又は長期化の理由

- ・完了予定年度に変更なし

3) 今後の事業進捗の見込み

【阻害要因】

- ・用地取得物件が多く用地交渉に時間を要する可能性がある。

【今後の見込み】

- ・2027年度までに整備が完了する予定である。

判定

B

- A：これまで事業は順調であり、引き続き計画通り確実な完成が見込まれる。
- B：次のいずれか（該当する項目に「○印」を付ける）
- これまで事業は順調である。今後は多少の阻害要因が見込まれるものの、一定の期間等を要すれば、解決できる見通しがあり、ほぼ計画通りの完成が見込まれる。
  - ・これまで事業が長期化していたが、事業期間を延長したことにより、今後は阻害要因がなく、ほぼ計画通りの完成が見込まれる。
  - ・これまでの事業長期化により、事業期間を延長した。今後も多少の阻害要因が見込まれるが、一定の期間等を要すれば、解決できる見通しがあり、ほぼ計画通りの完成が見込まれる。
- C：阻害要因の解決が困難で、現時点では、事業進捗の目処がたたない。

【理由】

- ・用地取得物件が多く用地交渉に時間を要する可能性があるものの、引き続き用地交渉及び工事を進めることにより、2027年度までに事業完了が見込めるため。

Ⅲ 対応方針	
<b>継続</b>	中止：上記①～③の評価で一つでもC判定があるもの。 継続：上記以外のもの。
Ⅳ 事後評価実施の有無と主な評価内容	
<p>■対象（事業完了後5年目）    □対象外</p> <p>【事業完了後5年を越えて実施する理由・対象外の理由】</p> <p style="text-align: center;">-</p> <p>【主な評価内容】</p> <p>・旅行速度、交通量（歩行者・自転車）、安全性の改善状況（アンケート調査等）</p>	